

恵那市SC (岐阜県)

会場＋ネットで作品展を開催

コロナ禍でネット開催となった昨年の「会員作品展」。今年は、会場とネットで会員の力作を紹介することができた。作品展に出品したサークルの活動を併せて取材した。



令和3年5月25～27日に恵那文化センターで開催した「会員作品展」。14回目を迎えた今回は、会場とインターネットで開催。昨年は新型コロナウイルスの影響を受け、会場開催は中止し、初めてネットのみで行った

「農村景観日本一の町」として知られ、美しい自然と多くの観光スポットを有する恵那市。恵那峡や「いわむら城下町」などの観光地では、案内係や受付管理を担う人材として、公益社団法人恵那市シルバー人材センターの会員が活躍している。

イベントが制限される中 ネット上でも作品展を公開

同センターでは、平成十三年から、毎年一回「会員作品展」を開催してきた（一時中断あり）。サークルメンバーによる手芸、趣味や特技を生かした会員の書、絵画といった力作が一堂に並ぶ、恒例のイベントになっている。

しかし、令和二年は新型コロナウイルスの影響で、会場での開催は中止せざるを得なかった。

コロナ禍では、作品を発表できる場が少ないのが現状である。製作にいそしむ会員にとって、作品展は大事なイベントであり、市民



洋服や人形、バッグ、掛け軸、書など、会員の力作が会場にずらりと並んだ。令和3年6月1日からは、インターネットでも作品の公開がスタートした



2年ぶりの会場準備に追われる会員たち

にセンター活動を周知するとともに、会員拡大にもつながる貴重な機会となっている。

そこで、何か良い方法はないかと模索した結果、インターネットを通して作品を発表することに踏み切った。できることが限られている今だからこそ、みんなが編み出した新たな試みであった。

そして令和三年、「第十四回 会員作品展」を恵那文化センターで五月二十五〜二十七日に開催。感染対策を行った上で、来場者を迎えて実際に作品を見もらうことができた。加えて、六月一日からは、インターネットでの作品公開をスタートした。

公開までの限られた時間で、パソコン関連の作業を担当した高草武臣さんは、「テレワークをヒントに、ネット上に作品の写真をアップロードして、作品展を実現させました。QRコードをセンターの会報に載せる工夫などもしましたが、シルバー世代のスマホユーザ



小木曾秋子さんが、2～3か月かけて製作したつるし雛。見た目のバランスが重要で、つるす作業が最も難しいという



サークル「暮らしの手芸」のメンバー。現在、15人の女性会員が活躍している。写真は取材時に参加したメンバー。前列左から山口峰子さん、牧野紀代子さん、梅村みち代さん、足立美保子さん、後列左から市川琴代さん、柘植明美さん、小坂敬子さん、西本まゆみさん、小木曾秋子さん、篠原明美さん、小林静恵さん、小木曾啓子さん



サークル「暮らしの手芸」は、毎月第2木曜日に恵那市福祉センターの一室で手芸活動を行っている。完成した作品は、毎年「会員作品展」に出品している

「はまだ多くありません。もっと見てもらいやすくするために、改善点がありそうです」と今後の課題を語ってくれた。

実際、同センターでは会員向けに「スマホ講習会」などを実施。ネットの活用が活発になれば、独自事業や会員の活動にも、さらなる可能性が広がりそうだ。

女性会員が手芸を通して暮らしを豊かに

作品展には、発足から二十年以上のキャリアがあるサークル「趣味の会」のほか、サークル「暮らしの手芸」も出展している。

サークル「暮らしの手芸」は、女性会員が気軽に参加でき、暮らしに身近な手芸を楽しめる会を目指して平成二十六年に発足した。手芸をきっかけに、新入会員の増加にもつながっており、現在十五人が所属。毎月第二木曜日の九時三十分を集まり手芸を行っている。発足に携わった牧野紀代子さん



材料を持ち込み、それぞれが好きな作品を作っている。メンバーの中には講師経験者もいるので、初心者でもサポートしてもらえる

着物を包む「たとう紙」を柿渋で染め、かごに貼り付けた篠原明美さんの作品。たとう紙の絵柄や文字などがそのまま生かされている



恵那市SCの事務局入り口には、サークル「暮らしの手芸」のメンバーが作った作品が展示されている

家にある使わなくなった着物の糸をほぐしている西本まゆみさん。ほどいた着物は、手芸で使う生地として再利用している



は、「一緒に作品を作るという決まりはなく、自分のペースで好きな物を作るのが、この会の良いところですよ」と話す。

牧野さんと一緒にサークルを立ち上げた小木曾秋子さんは、「何よりも人と出会えるのが楽しい。買い物で会うとおしゃべりができるような友達が増えました」と言う。

二人は手芸講師の経験者。講師時代の生徒がうわさを聞き、サークルに参加することも多いという。

梅村みち代さんも、その一人。

「つるし雛つるしひなを作ってみたくて、教室を探していました。手芸の会が恵那市SCにもあると聞き、作品展を見に行ったのが、入会のきっかけになりました」。

小木曾啓子さんは「みんなが違う作品を作っているの、勉強になります。息抜きというよりは刺激になっています。仕事をしていいたときにはできなかったの、今は自分の時間を楽しんでいます」と、活動にやりがいを感じている。

恵那市SC (岐阜県)



平成29年11月15日に開催された、岐阜県SC連合会主催の「元気いきいきシルバー応援フェア」。サークル「暮らしの手芸」の活動を大勢の来場者にPR



平成31年2月27日、岐阜市SCと行った「第10回女性の集い」。恵那市SCは組みひもを、岐阜市SCはネックレスの作り方を教え合い、交流を図った



令和2年11月16日に開催された岐阜県SC連合会主催「高齢者向けセミナー応援フェア（素敵なお働き方セミナー）」

取材に訪れた六月十日には、キルトを縫っている人、バッグのパーツを作っている人、生地を切る人、と皆、思い思いの作業をしていた。手を動かしながらおしゃべりも楽しみ、終始和気あいあいとした穏やかな時間が流れていた。普段は手芸の活動がメインだが、平成三十一年二月には岐阜市SCからの招待で、女性会員同士の交流会「第十回女性の集い」を実施。令和二年には、岐阜県SC連合会が主催した「高齢者向けセミナー応援フェア（素敵なお働き方セミナー）」に参加して、手作り小物を販売するバザーを行った。

総務・経理担当職員の牧野早余さんは、「作品展で、会員の知られざる素晴らしい才能に驚かされることもあります。今は年一回の作品展しか発表の場がないので、もっと地元いろいろな場所で増やしていきたいと考えています」と、今後の展望について語った。

(林真央)